



# 御修復のあゆみ 〱 伝承された先達の願い 〱

## 阿弥陀堂 外部鍍金物工事 ー 新たな技術も取り入れてー



阿弥陀堂の鍍金物工事として、破風や軒先に付けられた大きな金物の修復に取り掛かっています。御影堂に使用されていた外部鍍金物は約八十種類と多種多様でした。阿弥陀堂についてもほぼ同じ種類の鍍金物がい用いられていますが、目立って御影堂と異なる箇所が、垂木の鍍金物です。御影堂の垂木の先は、材木の切断面に白く塗装する木口塗りが施されているだけでしたが、阿弥陀堂の

垂木の先には、一つひとつ鍍金物を取り付けられ、合計で千二百四十箇所あります。このたびの修復では、この垂木金物をはじめ大小含めて五千個以上の金物の修復を行っています。



金物を取り外す前の確認作業

外部鍍金物の多くは、銅版の地金に打ち出しを行い、その上で寺紋、唐草の紋様を彫り、空地の部分には先端の刃がリング状になっている鑿を打ちこむことで、金属の表面に細かい粒を密に陰刻する魚子(七子、魚々子とも)という加工がされています。その魚子が非常に細かく精緻を極めたつくりとなっており、このたび修復にあたる職人の方たちからも、明治期再建の際の技術に感嘆の声があるほどです。

また、地金が形作られた凸部分には漆を用いて金箔が押されており、凹部分には黒い塗料による墨差しが仕上げに施されていました。

ところで、修復にあたって鍍金物を確認したところ、屋根面の妻鍍金物をはじめ、特に風雨にさらされる箇所は、全体が緑青錆(酸

化銅)に覆われてしまっています。また、鉄釘によって固定されていたため、より錆びやすい鉄釘が腐食して取れてしまっている金物も見受けられました。



垂木鍍金物

※この修復にあたり、指定寄付を募集しています。詳しくは、本誌81頁をご覧ください。

なお、汚れの取り除かれた金物は、叩き直しをして形を整え、もとの工法にしたがって漆金箔や墨差しなどの仕上げが施されていきます。



漆を接着剤として一枚一枚金箔を貼っていく

### <ショットブラスト>

コンプレッサーによる圧縮空気に砂などの研磨材を混ぜて対象物に吹き付ける加工法のことです。ガラス製品の加工のためのサンドブラストが一般的に知られる。最近では、砂だけでなくガラスビーズやナイロンなどの樹脂系、クルミの殻や桃の種などの植物系など、用途や加工品の素材にあわせてさまざまな研磨材がある。このたびの修復では、樹脂系のポリビーズが用いられている。



ショットブラストにより錆などの汚れを除去中



青海波の金物を3D計測中

に3Dの画像情報として記録しました。この機器は主に飛行機や車のエンジンなどの精密部品の金型作成のために用いられており、二十メートルの範囲を誤差三ミリ以下の精度で計測します。これにより、これまでわからなかった凹凸も鮮明になり、間違いのない資料を残すことができ、さらに後々の管理も非常に容易になりました。

再度金箔を押すために取り外した金物は、錆、汚れをしっかりと取り除く必要があります。御影堂の修復では、梅酢に浸すか又は希硫酸を用



金物の叩き直し



金物を慎重に取り外して修復を行う際、従来は修復後の取り付け位置が変わらないように一つひとつに位置番号をつけ、写真撮影や寸法取り、拓本採取を行っていましたが、このたびの修復では拓本に代わりレーザーを照射して位置情報とともに

「ショットブラスト」という乾式の工法を用いて、地金の表面を覆っている錆を落とすことにしました。「ショットブラスト」の工法は、地金を傷めずに済み、後々錆も発生しにくいものであり、今後の鍍金物修復のスタンダードになると期待される工法です。



凹面に黒い塗料を塗る(墨差し)